

## 子育て支援と保育実践 —絵本力とアタッチメント

浅 木 尚 実<sup>1</sup>・山 路 千 華<sup>1</sup>・鄭 曉 琳<sup>1</sup>

### はじめに

2023年に「こども基本法」が施行され、同法に掲げられたこども施策の立案・実施を担う行政機関として「こども家庭庁」が発足した。同年「こども大綱」も閣議決定され、一斉に「こどもまんなか社会の実現」に向けて行政が本腰を入れた。こうした動きを受け、保育所、幼稚園、認定こども園の役割についても大きく見直しが必要であり、子育て中の親子に一番身近な存在として、今後益々重要視されていかなければならない。本論では、「こども基本法」条文に示された「子育てに伴う喜びを実感できる社会の実現に資するため」の「家庭における養育環境その他のこどもの環境の整備」に関し、子育て支援への絵本の導入について提言を行う。OECDの研究発表<sup>1</sup>では、絵本が家庭における言語発達に大きく貢献することが判明し、世界規模で推進されている絵本を子育てに導入する育児法を保育者自身が理解し、子育て世代の保護者に伝えることは、家庭における養育環境を整備し、子育て中に、親子で喜びを共有することにつながり、ひいては「子育てに伴う喜びを実感できる社会の実現」を促すものである。本論では、第1章に、「こども基本法」と「こども大綱」について、第2章で、アタッチメントと絵本における三項関係、第3章で、子育て支援における

---

<sup>1</sup> 白鷗大学教育学部  
e-mail : n-asagi@fc.hakuoh.ac.jp

絵本の力について、特に愛着形成理論を生かした親子関係を育む絵本と子育て支援を中心に説いていくこととする。

## 第1章 「こども基本法」と「こども大綱」

### 1. 設立の理念及び基本方針

こども施策を総合的に推進することを目的として制定された「こども基本法」は、2022年に公布され、2023年4月に施行された。同時に、同法に掲げられたこども施策の立案・実施を担う行政機関として「こども家庭庁」が発足した。「こども基本法」は、日本国憲法や児童の権利に関する条約の精神にのっとり、全てのこどもが、将来に亘って幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的としている。その条文の第二条2－二には、「子育てに伴う喜びを実感できる社会の実現に資するため、就労、結婚、妊娠、出産、育児等の各段階に応じて行われる支援」及び、第二条2－三には、「家庭における養育環境その他のこどもの環境の整備」について一体的に講ずるべきこどもの施策の必要性を提唱し、「こども施策に関する大綱」を定めている。こども家庭庁は、「こどもまんなか社会の実現に向けて、常にこどもの視点に立って、こども政策に協力がかつ専一に取り組む独立した行政組織と専任の大臣が必要」であることを目指しており、「こどもが、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができる社会の実現に向けて、こども家庭の福祉の増進・保健の向上等の支援、こどもの権利利益の擁護を任務とする」と創設の必要性を謳い、こども政策推進会議を特別機関として担っている。2023年12月には「こども大綱」が閣議決定され、「こどもまんなか社会～全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会」を目指すと言明した。基本方針は表1の6項目である。

表1 「こども大綱」の基本方針（こども政策推進会議令和5年12月22日閣議決定）

- ① こども・若者を権利の主体として認識し、その多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る。
- ② こども・若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながら、ともに勤めていく。
- ③ こども・若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく対応し、十分に支援する。
- ④ 良好な成育環境を確保し、貧困と格差の解消を図り、全てのこども・若者が幸せな状態で成長できるようにする。
- ⑤ 若い世代の生活の基盤の安定を図るとともに、多様な価値観・考え方を大前提として若い世代の視点に立って結婚、子育てに関する希望の形成の実現を阻む隘路の打破に取り組む。
- ⑥ 施策の総合性を確保するとともに、関係省庁、地方公共団体、民間団体等との連携を重視する。

## 2. 保育所における子育て支援の役割

保育所、認定こども園においては、創設された行政機関である「こども家庭庁」の管轄下にあり、こどもの保育や教育を行う責務を負っている。また、「こども家庭庁」は、日本の子育て支援施策を担当する部局であり、保育所、認定こども園は、働く親や子育て中の家庭のこども預かり、子育て支援に関連する情報を提供する社会福祉施設でもある。本論の目的とする保育者が担う「絵本の力」の家庭への普及については、さまざま課題がある。第一に、保育者自身の絵本の力についての認識不足である。例えば、栃木県小山市の私立保育所・認定こども園29園を対象とした調査<sup>ii</sup>では、絵本をとっても重視しているとの回答率は、76%であったものの、絵本をこどもに読むタイミングとして、「活動の導入として」が52%、「活動と活動の合間」が42%とほぼ半数が絵本と子どもを主体とした活動ではなく、絵本そのものを楽しむ領域には至っていないのが現状である。こうした状況を鑑みるに、保育者自身の絵本への興味・関心の向上を図るためには、研修や自己研鑽が必要である。第二に、保育所、認定こども園における絵本環境の整備について、同じく、小山市の調査において、絵本環境の整備は、おおむね30～40冊程度の各クラスの蔵書数であった。厚生労

働省の「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」の第32条及び37条には、施設、ほふく室、給食室、園庭と並んで、「図書室の整備」も含まれている。にもかかわらず、「当面、設置しなくてもよい」との付則が追加され、30年以上も経過しているのが現状である。第三に、絵本購入への予算の少なさである。小山市の調査では、具体的に決まっていないところが多く、予算を1～10万円組んだものの、実際は少額の支出に留まっているところもあった。以上の三つの理由から、子育て支援に絵本を導入したくとも、親子に絵本を充分に活用したり、貸し出したりする環境とはいえない状況である。

### 3. 絵本とアタッチメント

絵本の力には、親子の愛着形成を育む要素が潜んでいる。浅木は、『絵本力—SNS時代の子育てと保育』（浅木、2023）の中で、親子のエピソードを通して、乳児から幼児に至るまで、こどもの発達に親が絵本を通して関わることによって、愛着が形成されている事例を紹介している。初めてのこどもが生まれ、子育てする中で、どのように小さいこどもと関わっていいのかを模索する親も多いのが現状である。このような時に、保育所や子育て支援施設の保育者が、絵本がもつ親子をつなぐ力を伝えることはそれほど難しいことではない。加えて、絵本は、低価格であり、保育所や認定こども園或いは、図書館から借りることもでき、家庭環境に取り入れやすい育児法でもある。

## 第2章 アタッチメントとは

アタッチメントとは、危機的な状況に際して、あるいは潜在的な危機に備えて、特定の対象との近接を求め、またこれを維持しようとする個体（人間やその他の動物）の傾性である（Bowlby, 1988）。一般的に、アタッチメントは、子どもが養育者との間に築く緊密な情緒的つながりとして認識される。Bowlbyによれば、子どもは、泣き、微笑、発声などを通して

養育者に発信し、そして、養育者を注視したり、後追いしたり、接近することを求める。養育者が子どもの信号を受けて、子どもの欲求に積極的に対応することによって、子どもとの間に安定的なアタッチメントが形成される。

科学的手法を用いる先行研究では、絵本がアタッチメントの形成に影響を与える要因の関連性を検討する研究がいくつか存在する。それらによれば、大きく三種類に分けることができる。一つ目は、アタッチメント理論と文学に関する研究である。すなわち、絵本の内容（絵あるいは文章）そのものが、アタッチメントに関連する内容である。例えば、養育者と子どもの感情について書かれており、アタッチメント理論と関連する絵本を読むことにより、子どもと養育者の間のコミュニケーションを高めるだけではなく、お互いの感情理解も促進されることが示されている（Galbraith, 1988; Young, 2012; Reschenhofer, 2023）。

二つ目は、アタッチメントの形成に不可欠な親子コミュニケーションと絵本の読み聞かせとの関連についての研究である。日常の絵本の読み聞かせ場面において、絵本を挟んで親子が向き合い、子どもの興味に応じて、また、登場人物に自分を重ね合わせたり、時に子どもの日常や過去を振り返ったりしながら、さまざまな対話が交わされるコミュニケーションの場として機能している、さらには、対話は交わされなくとも絵本を囲み共に時間を過ごすといった経験自体が「情緒的なコミュニケーション」に当てはまるとも考えられる（横山、1997）。藪中ら（2010）は、3歳児を対象に同じ絵本に関する親子の絵本の読み聞かせ場面を追跡的に調査した結果、加齢とともに子どもの発話量と発話の種類が増加したことが明らかにされた。また、3歳児に対する絵本の読み聞かせ場面において、多くの親は絵本の内容に関連する発話が多く、質問をすることによって子どもの発話を誘導することがよく見られたが、4歳になると、母親が能動的に子の参加を促して子どもの積極的発話を導こうとすることが明らかにされた。また、発達心理学者の内田伸子は、千葉県の子立幼稚園の30組の親子を

対象にした「幼児期の絵本の読み聞かせの母親の養育態度が与える影響」に関する研究で、「共有型」と「強制型」を横断的に比較している。その結果、支持的でトップダウンの説明が多い「強制型」の養育態度より、子ども自身で考える余地を与える「共有型」の共感的な母親の養育態度の方が、子どもがより主体的に絵本に関わっていることを明らかにしている（内田、2013）。

三つ目は、三項関係の成立における絵本の読み聞かせの影響に関する調査である（Rossmanith et al., 2014）。8ヶ月くらいになると、興味のあるモノや欲しいモノに指さしながら、乳児が周りの大人の方を向き、声で訴えかけることがよく見られる。つまり、自分と他者というコミュニケーションの主体が「モノ」に対する共同注意をしながら、その「モノ」にどのようにかわりたいかを共通理解することによってコミュニケーションが成立するのである。このように「第1項である私（子ども）」と「第2項である他者」と「第3項であるもの・こと」という三項関係が成立される（やまだ、1987）。この時期の乳児は、養育者と頻繁に視線を確認し、質的に相互作用をしながら関わっている。三項関係の成立は、他者の心の中に何を考えているか、どのような感情を持っているかを理解したり、推測したりする「心の理論」の成立の第一歩である。近年、絵本の読み聞かせを取り上げて、幼児—養育者—絵本の三項間の相互作用の発達について検討する研究が増えてきた。Rossmanith et al., (2014) は、生後3ヶ月～12ヶ月の乳児10名を対象に、観察法を用いて家庭内の絵本の読み聞かせ場面において、乳児が保護者と絵本との相互作用にどのように関与し、絵本に関わる相互作用が生後1年目にどのように変化するかを調査した。各乳児と保護者の関わり場面を3～4時間録画し計300時間の動画を分析した結果、乳児—母親—絵本の相互作用は、生後3ヶ月の早い時期から始まること、約6ヶ月で絵本の読み聞かせ場面における乳児と母親の目の見つめ合い「共同注意」がもっとも多くなること、7～9ヶ月の間に、ハイハイができるようになることにつれて、乳児の興味は一人でモノの探索活動

に大きく移行することになり、絵本に注意を向け、絵本を囲んで母親と交流することが減少する傾向があること、及び、9-12ヶ月くらいになると、乳児は手を伸ばして自分で本を掴んだり、自分で読みたい本を指さしをしたりすることが増加し、再び絵本と母親との相互作用が再現することが増加することが明らかにされた。つまり、絵本の読み聞かせを通して成立する相互作用の発達の軌跡を理解する上で、特に生後4-6ヶ月の間は相互作用を成立する重要な時期であると示唆された。

要するに、絵本の読み聞かせ中の親子の密接な身体的接近や、親の声の穏やかなトーンは、子どもに安心感や安全感を与えることができる。また、絵本には感情を喚起するテーマやキャラクターが含まれており、親が子どもに読み聞かせをすることによって、これらの感情を表現し説明することができ、子どもの情緒的知能や他者理解能力を発達させ、親子間の感情的つながりを強化する。さらに、絵本を通じて言語に触れることは、乳幼児のコミュニケーション能力の発達に役立つ。乳児期の絵本の読み聞かせは子どもの認知的および言語的発達を促進するだけでなく、親子間の感情的絆を強化し、安定的なアタッチメントと健全な社会感情の発達の土台を築く。

### 第3章 アタッチメント形成における絵本の活用

#### 1. 子育てにおけるSNS利用

子育てする中で、養育者はどのように小さい子どもと関わっていいのかを模索し、つつい身近になったYou Tubeやゲーム等子育てに使用する場合も多いのが現状である。子育て中に、SNSやゲームが子どもにどのような影響を与えるかといった研究は、あまり進んでいないが、内田は、科研費の研究事業で、3000名の幼児を対象に、幼児がゲームやビデオなどの映像メディアに長時間接触することによって、幼児の育ちに深刻な影響が出始めていることに警鐘を鳴らしている。調査では、絵本の読み聞かせとの比較も行っているが、ビデオゲーム使用時の会話は乏しく、養育者

との会話もゲーム操作以外のコメントはほとんど見られないことが判明している（内田、2005）

## 2. 絵本を通じての子育て支援のあり方

このような状況下で、保育所や子育て支援施設の保育者が、絵本がもつ親子をつなぐ力を伝えることはそれほど難しいことではない。加えて、絵本は、低価格であり、保育所や認定こども園或いは、図書館から借りることもでき、家庭環境に取り入れやすい育児法でもある。絵本の存在は、SNS時代においても子育てや保育において非常に重要な役割を果たしている。SNSは現代の子育てにおいて欠かせないツールとなっており、保護者同士が情報を共有し、コミュニケーションを取る場として活用されている。しかし、SNSの情報はあくまで一時的なものであり、一方的に提供されるおとなを対象としたツールである。子どもたちにとっては、識字前の絵の表現や感情の根源となる物語等を身近なおとなと共有する営みが必要である。同時に、第2章で述べたように絵本の共有は、親子のアタッチメント形成においても非常に重要な役割を担っている。絵本は、子どもたちに対して物語やイラストを通して情報を伝える媒体として存在するが、それは読む側のおとなの存在が不可欠である。子どもたちは絵本を通じて想像力を育むことができ、言語能力や語彙力の向上はもとより、感情の理解や社会のルールについても学ぶことができるツールであり、保育者や養育者が絵本を積極的に活用することで、子どもたちは自分自身の心の表現や感情の把握を促進することが可能となる。絵本を通じて子どもたちは新しい世界を発見し、さまざまな視点や価値観を学ぶことができ、同時に養育者とのコミュニケーションのきっかけや深まりも促す。SNS時代においても絵本の重要性は益々重要視され、過去から伝えられてきた絵本の読み聞かせは、普遍の未来につながる恒久的な子育て手段である。絵本はおとなが文字を読み、子どもが絵を読む構造から、養育者や保育者が子どもたちに提供すべきものであり、絵本を通じて子どもたちの成長や発達を促進す




るために、絵本の選び方や読み聞かせ方にも工夫が必要となる。SNSと絵本を上手に組み合わせることで、より豊かな子育て環境を提供することができる。絵本は子育てと保育において、言葉や感情の発達をサポートする役割を果たす。保護者や保育者は、子どもたちに絵本を積極的に提供し、読み聞かせることで、子どもたちの成長に貢献することができるため、より良い子育て環境を絵本によって満たすことが、子育て支援の一助ともなるのである。

### 3. アタッチメント形成に関連した絵本

医科大学精神科医ダニエル・シーゲルは、『生き抜く力をはぐくむ愛着形成の子育て』（シーゲル、2022）の中で、子育てとアタッチメント形成において必要な要素として次の「4つのS」の要素をあげている。「4つのS」すなわち一つ目は、Seen「見守られている」二つ目は、Safe「安全」、三つ目は、Soothed「なだめる」四つ目は、Secure「安心」である。前述したように、絵本は身近なおとなが子どもに読み聞かせることによって、同じ絵本という媒体を共有しながら、子どもとおとなの気持ちを共有できるメディアである。子育てする際に、これら「4つのS」を含む絵本を、おとなが子どもに読み聞かせをすることで、大きな安心感と安定感をもたらすことが出来ると考えている。

#### ①Seen「見守られている」を伝える絵本

表2の『はじめてのおつかい』（筒井頼子作 林明子絵 福音館書店）

表2 『はじめてのおつかい』	は、初めて牛乳を買いに行く5歳のみいちゃんの話だが、最初の場面で描かれた母親が実は、坂の下で見守っていたと思われる視点と裏表紙の傷の手当を読むことによって、母親との愛着形成が感じられる。母親となら何度も通って知っている道も街も人も、一人で行くとまるで
	
筒井頼子作 林明子絵 福音館書店	

違ったものに感じる小さな女の子の様子は、きっと読み聞かせを聞いている子どももギュッとこぶしを握り締めるのではないだろうか。お母さんが待っているからと勇気を振り絞って困難を乗り越えて帰ってくる時には、親子ともども胸をなでおろす場面である。読み終わった時、どんなことがあっても、見守ってくれる人があるんだと感じられる絵本である。

表3 『もりのなか』



マリー・ホール・エッツ作  
まさきりこ訳 福音館書店

表3の『もりのなか』（マリー・ホール・エッツ作 まさきりこ訳 福音館書店）も同様に、遊び疲れた子どもにとって、迎えに来てくれる人があるとホッとできる絵本である。作者のエッツはアメリカのウィスコンシン州の小さな町に生まれ、幼少期には動物たちと親しんで過ごしていた。この物語の中

でも森の個性豊かな動物たちと出会い、主人公は先頭に立って動物たちを引き連れて散歩をしていく。しかし、その行列を少し怖がるうさぎと出会い、「ぼくとならんでくればいいよ」と散歩は続くが、そのうち、お菓子と一緒に食べて散歩はピクニックに変わり、その後は、皆で円陣を組んで“はんかちおとし”などのゲームが始まる。そして、かくれんぼをして、辺りはしんと静まり返る。子どもが如何に発想豊かに遊び、しかし、遊んでいるうちに起こる心地良い疲労感も親子での読み聞かせでは共感できる部分ではないだろうか。しんとした森で目を開けるとそこには父親が迎えに来ている。かくれんぼの途中なんだと意思表示しながらも、「また今度」と父親の肩車に乗って帰っていく場面では、きっと読み聞かせを聞く子どもも、「あー、楽しかった」と感じられることだろう。

## ②Safe「安全」を伝える絵本

表4『ちいさなねこ』（石井桃子作 横内襄絵 福音館書店）は、まだ乳飲み子である子猫が、家から出てしまう場面から始まる。自動車に轢かれそうになったり、犬に追いかけられたり、這々の体で逃げ、やっと木に

表4 『ちいさなねこ』



石井桃子作 横内襄絵 福音館書店

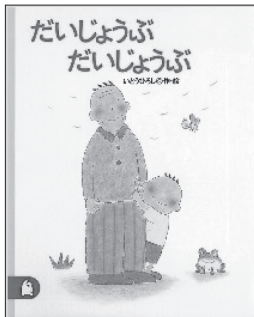
登って一息つくものの、その後は幼い猫が故に為す術がない。そこへ、異変に気づいた母親が子猫を探し当て、犬を必死の覚悟で追い払い、子猫を木からくわえて降ろして家に連れ帰る。瀬田貞治は、『幼い子の文学』で、幼い子の文学は「行って帰る」形式が適していると

述べているが、二進も三進もいかなかったピンチを母親が助ける結末にすることで、読み手の子どもは、小さな猫のピンチを母親が救出する物語を我がこととして重ね合わせて聞くのである。車に轢かれるのでもなく、木に登ったままでもない母親に救われた安心感に包まれた本書は、自分の保護者である母親からの「困ったときは、助けてあげるからね」というメッセージとして受け止め、母親からの愛情が流れ込み、愛着から、自分への自信へつながり、ひいては自分から羽ばたく力を培うことになるのではないだろうか。

### ③Soothed「なだめる（寄り添う）」を伝える絵本

表5の『だいじょうぶだいじょうぶ』（いとうひろし作 講談社）は、おじいちゃんとぼくとの強いつながりが感じられ、タイトルの会話を重ねるごとに、おじいちゃんがなくてはならない存在となっていく。次第に

表5 『だいじょうぶだいじょうぶ』



いとうひろし作 講談社

表6 『なつみはなんにでもなれる』



ヨシタケシンスケ作 PHP研究所

「だいじょうぶ」という言葉がおじいちゃん和一体和化し、力強くぼくを  
支えていく1冊となり、読者のこどもにも「だいじょうぶだよ」読み手が  
伝える絵本になるであろう。

表6の『なつみはなんにでもなれる』（ヨシタケシンスケ作 PHP研究所）  
は、タイトルの通り、なんにでもなってしまう女の子の話である。寝る時  
間になって、早く寝てほしい親と全然寝たくない子どもとの攻防のやり取  
りが、ヨシタケシンスケらしい常識的にモノを見ない視点でユニークに描  
かれた絵本である。子どもの「いいこと思いついた！」に付き合うおとな  
は大変である。にもかかわらず、母親は、何にでもなれているつもりの子  
どもの妄想に逐一回答する。全問、不正解でも、である。しかし、そんな  
母親がいてこそ、子どもは、安心してなんにでもなれてしまうのである。  
この絵本を親子で読んだ後には、おとなにとって面倒くさい、でも、愛情  
たっぷりの寝る前の時間を覚悟しなければならないかもしれない。

#### ④Secure（安心）を伝える絵本

表7 『ロバのシルベスターとまほうの小石』

表7の『ロバのシルベスターとまほうの小石』（ウィリアム・スタイグ作 せたていじ  
訳 評論社）では、小石の魔法により岩と化  
してしまった息子であるロバのシルベスター  
を必死で捜し回る両親の姿が描かれる。子ど  
もが居なくなってしまったとき、両親がどん  
なに嘆き悲しむかを知るおとなの気持ちを伝  
える貴重な1冊となるであろう。



ウィリアム・スタイグ作  
せたていじ訳 評論社

## 4. 絵本を通じての親育て支援

前述した4つのSの絵本は、養育者が子どもに絵本を読み聞かせた際、  
子ども自身が「見守られている」「安全である」「寄り添ってもらえている」  
「安心していられる」を軸に選出した6冊である。

しかし、現代、核家族が大半を占める子育て世代にとって、子育てに関

する情報が溢れる中で、信頼でき頼れる存在となるのは保育所や認定こども園の保育者であるといっても過言ではない。子育ての大変さからつい「子どもが可愛く思えない」とか「子育てに自信がなくなった」との子育て不安の事例も多い。

しかし、その前に親になる以前の養育者にとっても寄り添う誰かが必要なのではないだろうか？ そんな折りに、次に挙げる表8と表9の2冊の絵本は親になることへの背中を押してあげる内容となっている。表8の『ぼくにげちゃうよ』（マーガレット・ワイズ・ブラウン、ほるぷ出版）は、1976年にアメリカの絵本画家マーガレット・ワイズ・ブラウンのうさぎ親子の作品だが、「ぼくにげちゃうよ」と母親に言う小さい息子に、「おまえが逃げたら、母さんは追いかけますよ。だっておまえはとってもかわいいわたしのぼうやだもの。」と語りかける。続けて、息子は「かあさんがおいかけきたら、ぼくはおがわのさかなになっておよいでいっちゃうよ。」すると母さんは「おまえが、おがわのさかなになるのなら、かあさんはりょうしになって、おまえをつりあげますよ。」と畳みかける。ぼくがどこに逃げてもしっかりと追いかけて見守っていくよという母さんの決意表明とも見える会話が続いていく。とうとう最後には「・・・ぼくはにんげんのこどもになってうちのなかににげちゃうよ。」という息子に「おまえがにんげんのこどもになって、うちになににげこんだら、わたしは、かあさん

表8 『ぼくにげちゃうよ』



マーガレット・ワイズ・ブラウン文  
クレメント・ハード絵  
岩田みみ訳 ほるぷ出版

になって、そのこをつかまえていただきめしますよ。」と受け答える。成長につれて、こうした会話はただの子離れのできない親の戯言になるが、幼児期には愛情あふれる言葉かけが愛着形成の表現となり、子どもに愛情にくるまれているという安心感を与えることになる。家族内では、黙っていても愛情は伝わるものと、照れくささも加わり、愛情

表現を省略し、直接的な言葉かけする機会が少ないのではないだろうか。しかし、幼児は毎日自分がどんなに愛されているかを言葉でもくるまれることを待っている。毎日、毎晩、「好きだよ。大好きだよ」と言い合える親子の絆は、益々太く丈夫になっていくであろう。表9の絵本『とうさんがとうさんになった日』（長野ヒデ子、童心社）では、出産を経験しない父親がいつ親としての自覚をもったのかについて生き生きと描かれている。長野ヒデ子は、『おかあさんがおかあさんになった日』（1993年）の出版後、2002年に同書を描く。これは、実際に子どもの言葉「お父さんは、あかちゃんを産まないのに、どうしてお父さんになったってわかったの？」と子どもの鋭い一言がヒントになって生まれた作品であることが本書に書かれている。


表9 『おとうさんがおとうさんになった日』



長野ヒデ子作 童心社

核家族による子育ての母親の孤立が問題視される中、父親が育児に参加することを推奨した「IKUMENプロジェクト」が厚労省のホームページに掲載されている。「仕事も子育ても、どちらも充実させたい、どちらも楽しみたい、そんな価値観を持つパパたちが増えています」との謳い文句に続き、表10の「育児・介護休業法の改正が、2022年10月施行され、父親への育児参加を呼びかけている。

表10 イクメンプロジェクト（厚生労働省HP<sup>iii</sup>）

	<p>2021年6月、育児・介護休業法が改正されました。男性の育児休業の取得を促進するための新たな制度「産後パパ育休（出生時育児休業）」が創設され、2022年10月にスタートします。</p>
<p>また、それに先立ち、2022年4月からは、</p>	<p>①研修や相談窓口の設置など育児休業を取得しやすい雇用環境の整備を行うこと ②これから子どもが産まれる従業員等への育児休業制度などについて個別周知・意向確認を行うことが企業に義務付けられ、これまで以上に男性が育児休業を取得しやすくなります。</p>

子育て支援とは、このように親支援も含まれる。絵本という身近な文化財をおおいに活用しながら、親支援においても伝えていくことが、保育士にも求められているのではないだろうか。

## 第4章 おわりに

子育てとアタッチメント形成において、手段は様々あると思うが、本論では絵本を通しての子育て支援法を具体的に子どもへの子育て支援として6冊、親支援として2冊を提案した。こうした絵本はまだ数多く存在するが、本論では、絵本の種類より、絵本が子育て支援に有益である理由に焦点をあてたい。理由は、次の三つである。一つ目は、絵本が非常に身近で、経済的な負担も少ないこと。二つ目は、まだ経験の浅い保育者や自身の子育て経験がない保育者にとっても理解しやすい方法であること。三つ目は、2章で明らかにしたように、発達心理学の愛着理論とも合致した手段であること。以上、三つの理由は、無理なく、すぐ始められ継続しやすい方法でもある。

絵本には、他にも多くの力がある。拙著『絵本力—SNS時代の子育てと保育』（浅木、2023）の中で、言葉の発達や自己肯定感の育成、また聴く力や遊びへのきっかけ作り、科学への興味育成等々について多々言及した。しかし、こうした子どもの発達を促すのも、まず誕生後すぐに養育者との愛着形成の基盤がしっかりと培われていることが必要である。



第1章で、「子ども家庭庁」が発足し、「子ども基本法」が施行されたことを述べた。今こそ、養育者と保育者が一丸となって「こどもまんなか社会」の実現に向けて手を取り合うことが重要である。

絵本がさまざまな子育てや子どもの発達に貢献できる力を持っていることについての認識は、保育者自身にも親世代にもまだ普及しているとはいえない。今後、絵本を通して楽しく実りのある子育て支援社会の実現をめざしたい。そのための第一歩として、白鷗大学内に子育て支援センターの創設を提言したい。絵本による子育て支援の発信地として、また「こどもまんなか社会」に向けての地域連携の意見交流の場として機能するのではないだろうか。

### 【引用参考文献】

- 内田伸子「幼児期の絵本の読み聞かせに母親の養育態度が与える影響：「共有型」と「強制型」の横断的比較」、p.150-159『発達心理学研究 第24巻、第2号』、2013
- 瀬田貞二『幼い子の文学』、中公新書
- ダニエル・J・シーゲル『愛着の子育て』大和書房、2022
- 浅木尚実『絵本から学ぶ子どもの文化』同文書院、2015
- 浅木尚実『絵本力—SNS時代の絵本と子育て』ミネルヴァ書房、2023
- 山路千華 浅木尚実 鄭曉琳「小山市の保育施設における絵本環境の現状と保育者の意識に関する調査」白鷗大学論集第37巻第2号、白鷗大学経営学部、2023
- Bowlby, J. (1988). A secure base: Parent-child attachment and healthy human development. New York: Basic.
- Galbraith, M. (1998) “Goodnight Nobody” Revisited: Using an Attachment Perspective to Study Picture Books about Bedtime’, *Children’s Literature Association Quarterly*, 23, 172-18.
- Reschenhofer, B. K. (2023). Avoiding Bernard: The Illustration of Insecure Attachment in Not Now, Bernard. *Children’s Literature in English Language Education*, 11, 21-42.
- Rossmannith, N., Costall, A., Reichelt, A. F., López, B. & Reddy, V. (2014). Jointly structuring triadic spaces of meaning and action: book sharing from 3 months on. *Front. Psychol.* 5:1390.
- 藪中征代・吉田佐治子・村田光子 (2010). 絵本をめぐる親子のやりとりの継時的変化 (3) —文字のない絵本の読み聞かせを通して— 日本教育心理学会第52回総会発表論文集.
- やまだようこ(1987). ことば前のことば：ことばが生まれるみちずじ1. 東京：新曜社.
- Young, Kay. (2012). ‘Wounded by mastery’: Dickens and attachment theory. *English*, 61,



234-247.

横山真貴子 (1997). 就寝前の絵本の読み聞かせ場面における母子の対話の内容. 読書科学, 41, 91-104.

### 【引用した絵本】

筒井頼子作 林明子絵『はじめてのおつかい』 福音館書店 1977

マリー・ホール・エッツ作 まさきりこ訳『もりのなか』 福音館書店 1963

石井桃子作 横内裏絵『ちいさなねこ』 福音館書店 1967

いとうひろし作『だいじょうぶだいじょうぶ』 講談社 1995

ヨシタケシンスケ作『なつみはなんにでもなれる』 PHP研究所 2016

ウィリアム・スタイグ作 せたていじ訳『ロバのシルベスターとまほうの小石』 評論社 2006

マーガレット・ワイズ・ブラウン文・クレメント・ハード絵 岩田みみ訳『ぼくにげちゃうよ』 ほるぷ出版、1976

長野ヒデ子作『おとうさんがおとうさんになった日』 童心社 2002

### 注釈

- i 「国際読解力調査」PIRLS：40カ国で行われた調査で、義務教育に就学するまえの家庭での読み聞かせに関する学習活動と、10歳時点での読解力に正の相関関係があると報告されている。
- ii 「小山市の保育施設における絵本環境の現状と保育者の意識に関する調査」2022年8～9月実施（有効回答率86％）：本研究は、2022年度白鷗大学総合研究所の特別研究助成を受けて行われ、白鷗大学論集第37巻第2号（2023）で詳述している。
- iii イクメンプロジェクトのご案内 | 厚生労働省 ([mhlw.go.jp](https://mhlw.go.jp))

